

仏教用語を用いた人生相談で  
若者に「喝！」を入れるお坊さん

**千代川 宗禎**

Chiyokawa Sohtei

◆仏教用語を用いた人生相談のスペシャリスト

◆若者に「喝！」を入れ、道徳を説くお坊さん

◆曹洞宗 天長山「迎福寺」の副住職(36代目住職)



### 【ガッツリ背中を押し、「喝！」を入れてくれるお坊さん】

癒し系のお坊さんが話を聞いてくれるBarや、心静かに写経を行うセミナーが秘かなブームだが、今、若者が求めているのは、

「癒し系」ではなく「ガッツリ系」！ 体育会系のパワフルお坊さんだ。

ガツーンと背中を押し、欲しい時代になっている。

宗禎さんは、まさに体育会系、ガツン系のお坊さん。

登校拒否の高校生を引っ張り出すなど、悩んでいる若者達と

全身全霊で向き合い、とことん話を聞き、

「喝！」と生きるための気合いを入れ、

ガッツリと背中を押ししてくれる。

仏教用語の「喝！」という言葉は、死者が

現世に未練を残し、路頭に迷わないように、

葬儀で引導を渡す時、大きな声で死者に

投げかける言葉。

悩める人が多い現代の若者にこそ、

「喝！」を入れるための「ガッツリ」系

のお坊さんが必要だ！と考えている。



本堂の阿弥陀三尊仏。  
350年程前に創作された

### 【「問答無用」は 現代の若者に伝えたい仏教用語】

「問答無用(もんどうむよう)」は実は仏教用語。

禅宗で師と弟子との間で使われる「問い」と「答え」のことを「問答」とい  
い、現代ではあれこれ議論しても何の役にも立たないことを指す。

宗禎さんは、若者が人生で悩んだ時に「問答無用！」という言葉

を投げかける。あれこれ考え、悩むのではなく、1日をやりきる、常に後悔

のないように生き切ってほしい。悩みの答えは、自然と仏様が教えて

くれる、という考え方で、世の中にメッセージを発信している。

### 【“良い加減”に生きよう！】

年間100件近い葬儀の中で、多くなって

きている「自殺」。宗禎さんは

「物質にだけ満たされて心が満たされて

いない世の中になっている」と考える。

例えば、お金も必要であるが、ただ

稼げば心が満たされる訳ではない。

逆に少なくとも心が豊かにならない。

バランスが崩れてしまうと、カルト的な

宗教にハマったり、恨みや妬みから事件を起こしたり、人生に

疲れて自殺してしまう。

仏教には「中道」という言葉があり、分かり易く言えば「良い

加減」である。「いい加減(おざなり)」ではなく「良い加減

(ちょうどよい)」だ。

これが実は一番難しい。お金も良い加減。時間も良い加減。健康

も良い加減。イコール、心も良い加減になる。

仏教の言葉を知ると、悩んでいる事の解決の糸口が見えてくる

として、現代に仏教の「良い加減」を広めている。



迎福寺は518年前ご開山  
本堂は275年前に建立

1978年に曹洞宗の寺に生まれ、  
現在、千葉県(印西市)の寺の副住職。

世田谷学園、駒沢大学で、曹洞宗だけでなく  
様々な宗教を学んだ。また、サンタモニ  
カカレッジ留学中に、世界の宗教も研究し  
「全ての宗教の考え方は同じで道徳を説い  
ている」ということを悟る。

2009年、永平寺東京別院長谷寺にて、  
半年間の修行。修行中は一切、言葉を発す  
ることなく「鳴らし物」の音だけで生活。

その後、曹洞宗迎福寺(千葉県)にて副住  
職を務め、現在に至る。

年間数百件の葬儀や法事をする傍ら、  
若者に「宗教心=道徳心」を広める活動を行  
う。

ブログ等で若者向けにメッセージを発し、  
数々の人生の悩みに「問答無用」として、  
あれこれ考えるのではなく仏教の世界の知  
恵を受けるというスタイルでアドバイスを  
授け、「喝」を入れる。

### 【ぜひ取材をご検討ください】

・お坊さんに密着 ・人生相談、悩み相談 ・お寺体験 ・仏教用語について など

取材のお問い合わせは、ホワイトナイト(株)久保まで TEL: 03-5414-2831